

谷川岳：谷川岳縦走

- ◆日程 2019年11月3日(日)～4日(月・振替休日)
 ◆メンバー L：岡村，大塚，伊藤

谷川岳の西黒尾根は日本三大急登の一つとされる。昨年末冬合宿で登った甲斐駒ヶ岳の黒戸尾根と同じ括りとなれば、登らない手はない。夏に中止となった計画も今回は晴れ予報。紅葉も期待できそうだ。前夜20時過ぎに岡村Lの車にピックアップして頂き、谷川岳ロープウェイに深夜0時頃着、立体駐車場は閉鎖されていたため、手前の青空駐車場に車を止めてテント泊。寒かった。(記：大塚)

11月3日(日) 天候：晴のち曇り

6時起床，7時少し前に行動開始。登山指導センターで水を補給して西黒尾根登山口に入る。確かに急登で汗が噴き出すが，空気は涼しく，さほどの苦ではない。二時間程で緩やかな斜面に出た。その先は眺めの良い稜線だ。再び急登だが，頂上が見えるうえに岩登りありで，楽しくなってきた。眺めの良い一枚岩「氷河の跡」などで休みながら頂上を目指す。天神尾根と合流した。大行列だ。肩の小屋のトイレも渋滞だ。ここでデポしてトマの耳とオキの耳を往復する。始終渋滞だが，オジカ沢ノ頭から平標までの目指す稜線がクッキリと見える。更に先にある苗場山との隙間には白い峰々も顔を出している。後で写真と地図をよく見ると，劔岳や白馬岳だった。谷川岳でこれだけ見通せるのは珍しいと岡村L。



小屋から西に向かう稜線に入ると再び静けさが戻り，気持ちが良い。標高は低いが高木はなく一面が笹の原。冬の厳しい気候ゆえか？オジカ沢ノ頭に近づくとも山頂脇に宇宙船のようなものが見える。岡村Lによれば，この稜線の名物小屋とのこと。大きなドラム缶を横倒しにした



ような奇妙な造りで，入ってみると横になって寝るには狭そうだ。天候が荒れた時にはこれでも役に立つのかなと思い先へ進む。気が付いたら霧の中。そこに突如大きなドラム缶小屋。目的の大障子避難小屋に到着だ。先行者は2名で1人は外でテント泊，中に1人だ。後から1名加わり計5人だが広々だ。早めに夕飯を頂き，7時前には就寝となった。

【夕食】海藻サラダ：乾燥海藻サラダを水戻しして塩昆布と和える。リゾット：一人当たりアルファ米1袋にトマトスープの素1，卵スープの素1，シュレッドチーズ少々，乾燥野菜10g，大豆ミートひき肉タイプ10gを加えて多めの湯で膨らませて混ぜ，コンビーフを追加。(記：大塚)

CT：駐車場 6:45 - 西黒尾根入口 7:15 - 谷川岳 11:10/12:30 - オジカ沢ノ頭
 13:15 - 大障子避難小屋 14:30

11月4日(日) 天候：雪のち曇り

朝から吹き付ける風と霧雨だ。明るくなったら少しは回復するかもと期待しつつ防水と防寒対策をして待つが変わらない。意を決して小屋を後にする。進むにつれ風が強まり、霧雨はいつしか霰状の雪になった。視界が悪い中、しばしば岩場や痩せ尾根があり、足元注意だ。天気が良いれば素晴らしい見晴らしのはず。この先、稜線上には2つの避難小屋があるがどれも大きなドラム缶だ。それでも中は乾いていて、この天候では有難さを実感できる。当然、どちらにも入って休憩した。平標近辺はお花畑で有名だが、今回は雪のかかった低木がサンゴのように白く輝き美しい。ここから計画通り松手山コースに行くか、休憩に適した山の家のある平元新道に変更するかが議論になった。個人的には松手山(1614m)を經由したい。帰りのバスは約2時間後、それを逃すと2時間待たねばならない。CTが短く、木の階段が整備されたいということで前者に行くことに決定。進むうちに雲が晴れ、視界が開けた。上空は青、山頂は雲の白、その下は雪の白、中腹は紅葉、下の方は緑の見事な色彩だ。松手山を選んで正解だった。



ここから計画通り松手山コースに行くか、休憩に適した山の家のある平元新道に変更するかが議論になった。個人的には松手山(1614m)を經由したい。帰りのバスは約2時間後、それを逃すと2時間待たねばならない。CTが短く、木の階段が整備されたいということで前者に行くことに決定。進むうちに雲が晴れ、視界が開けた。上空は青、山頂は雲の白、その下は雪の白、中腹は紅葉、下の方は緑の見事な色彩だ。松手山を選んで正解だった。

バスの到着30分前に下山完了。

電車に乗り継いで土合に到着後、地下駅を見学している間に岡村Lが車を取りに戻って迎えに来てくれた。伊藤さんが探してくれた銭湯風の渋い温泉「諏訪温泉センター」でゆっくりと疲れを癒した後、気になっていた和菓子屋で「手作り生どら焼き」を頂いた。生クリームと混ぜた餡が実にうまい。この気ままさは小人数ならではだ。寒い



思いもしたが、紅葉からシーズン最初の雪と、季節の変わり目を存分に味わえる旅だった。

(記：大塚)

【感想】

(岡村) 高校時代、このルート(または逆U字)は合宿前の梅雨時の定番で、谷川錬成(れんせい)と呼ばれ、思えばいつも雨だった。今回、久々に踏み直し、歯ごたえを感じた。初日は遠くまで見渡せたが、翌日の国境稜線は風とガスに雪が舞った。でも、その方が谷川らしい。見渡す限りの笹原、無骨な避難小屋、ぬるっとした足元、どれもが「ああ谷川だな」と思いつく。でも平標周辺はずいぶん整備された感じがした。ちょっと観光地ふうだ。

(伊藤) 横浜山の会で初めての宿泊山行参加。

初日は天気が良く、泥濘んではいたものの、急登と言われる西黒尾根も気持ちよく登れた。谷川岳山頂付近はロープウェイを使って来る人も含め、観光地然としていた。

二日目は雨の中のスタート。気温も低く手足が冷えた。しばらくすると雨は雪に変わり、やがてうっすらと積もって冬の到来を味わうことが出来た。谷川岳はこの日がこの冬の初冠雪だったようだ。

CT：大障子避難小屋 6:20 - 万太郎山 7:30 - 仙ノ倉山 11:10 - 平標山 11:50
- 松手山 12:50 - 平標登山口 13:40 = 土合駅 15:30 = 帰途(車)